

あいおい

相生小学校 学校だより
令和8年度 8月号

授かった命だからこそ

校長 高橋 篤

冒頭より私事で申し訳ありませんが、先日誕生日を迎えました。この歳になって特に感慨深いものはないのですが、平均寿命から見ると7割近くを生きてきました。この世に多くの生物が存在する中で、人間として生を受ける確率は、「100兆～1000兆分の1以下」と見積もる学者が多いようです。相生小の子ども達を含め、私たちは奇跡のように生を受けた瞬間から必死に生き抜いてきました。

先日の研修で「愛着」について学びました。ここでいう「愛着」とは、「他人や動物などに対して築く特別の情緒的な結びつき」のことです。生まれて3カ月ぐらいになると赤ん坊は、「快（生）」「不快（死）」の感情をもつとされます（あとは「興奮」の3つの感情だけだそうです）。お腹がすけば死につながるわけですし、おむつの中に汚物がたまれば得体のしれない物に命が脅かされることになるわけです。そうすると泣くなどして命の危機を知らせます。そうすると、大人が気付いて対応し、その積み重ねで、赤ん坊はまずその環境の中で生きることの「安心」を得て「愛着」がついてくるそうです。この「愛着」こそが「自分は生きていいんだ、存在していいんだ」という自己肯定感のもととなります。生きることそのものは無条件でOK！ですね。そして、親（大人）の役割として①安心して戻ってこられる存在②感情の鏡③豊かな感情体験を与える④一貫した対応、が挙げられています。これは乳児期に限ったことではないと思います。この世に人間として授かった命です。私たちは今後も子どもの命を守り、包み込みながら成長を見守っていきたいですね。



また、現代の日本は時間や場所を問わず地震や大雨による災害が起きています。先日の「令和8年熊本地震」や「令和8年8月千葉豪雨」では多くの人命が失われ、被災して今も不自由な生活を余儀なくされている方がみえます。亡くなった方のご冥福をお祈りし、被災された方にお見舞いを申し上げます。授かった命を、まずは自分で守ることも必要とされる時代です。熊本の商業施設では避難誘導の確実さ、迅速さが評価される一方で、その後の対応の過ちにより尊い人命が失われました。

学校では、防災教育の年間指導計画を立案し、4回の「命を守る訓練」を実施しています。二段階の避難場所（運動場、旧JA裏の空き地）を設定していますので避難の練習をしたり、放送設備が使えない想定、授業時間以外の発生の想定等の多様な場面設定での訓練を行ったりして、防災に対する児童の意識と教職員の危機管理能力の向上を行っています。先日「相生小には救助袋はありますか」という話題がありました。相生小は救助袋はありませんが、非常階段を含めた避難経路をもとに、複数の経路で避難できるようになっています（しかし、非常階段の老朽化が激しく教育委員会に修繕を要望しています）。そして、毎年夏休みには職員で備品の点検をし、余計な物はないか、廃棄するものを置き去りにしていないかという確認をしています。

9月1日は「防災の日」です。家庭でも防災に対する備えや約束事を確認できるとよいですね。

授かった命を自分で大切にし、人の命を尊重し、精一杯生き抜く人でありたいものです。



命を守る訓練の様子

相生の勢いを踊りにも！

8月1日の「小中学生郡上踊り発表会」に、相生小学校からは総勢36名4チームが参加しました。事前には保護者の皆様により練習会を開き、踊り方やポイントを指導いただき、子ども達も真剣に指導を聞き、練習に臨みました。「楽しく踊る」をテーマに、当日も相生小の存在を多くの聴衆に見ていただけました。郡上踊りの伝統の継承が相生の子どもも担えていることを誇りに思います。賞を獲得することが必ずしも目的ではありませんが、相生をはじめとする子どもの参加の熱意が届き、来年度は小学校の賞も設けられるそうです。子ども達にとって有意義な経験でした。皆様のご協力に感謝いたします。



合同資源回収、奉仕作業ありがとうございました

8月23日（日）に、小中合同資源回収、奉仕作業を行いました。

資源回収は、皆様で分担して手際よく進めていただきました。

奉仕作業はそれぞれの分担（溝掃除、除草、ガラス・蛍光灯拭き、相生駅周辺の掃除、遊具ペンキ塗り）に分かれ、作業をしました。環境が美しく整えられ子ども達が気持ちよく夏休み明けをスタートすることができます。ペンキ塗りは時間が掛かり申し訳ありませんでした。

当日は参加ができなくとも事前に除草などの作業をしていただいた方もみえました。

運営いただいた皆様、参加いただいた皆様に感謝申し上げます。また、児童も多く参加しました。自分たちの手で自分たちが過ごす環境をきれいにできました。お疲れさまでした。



<学校運営協議会を開催しました>

8月27日（木）に八幡西中学校で第2回学校運営協議会を開催しました。今回は、八幡西中学校の生徒による活動紹介、花の栽培の取組依頼がありました。今年度の生徒会は、前例の成果を生かしながらも踏襲のみでなく新たな挑戦をしています。花の栽培で言えば、今年度は西中の生徒が本校1年生と合同で活動をする依頼を受け、快諾をしました。

また、今年度より学校運営協議会の副題として「**地域の役に立ちたいと思える子を育てよう**」が示されました。22日に「駅前おどりタベ」では、最後の抽選会を中学生の公民館理事が進めました。行事への参加も入口としながら、「自分だったら何ができるか」「得意を何で役立てられるか」を子ども達が考えるきっかけを与えるのが大人の役割だと私は考えます。目立つことだけが役に立つことではありません。地域の人とあいさつをし合って、互いに元気になるのも一つです（あいさつは活動の重点となっています）。学校でも子ども達の意識を高め、アイデアを生かしていきます。

夏休み前に実施しました保護者アンケートへのご協力ありがとうございました。いただいた評価をもとに検討し、今後の学校運営に生かしてまいります。結果等は改めてお知らせします。